

平成30年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 熊西 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学, 理科)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 数学, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

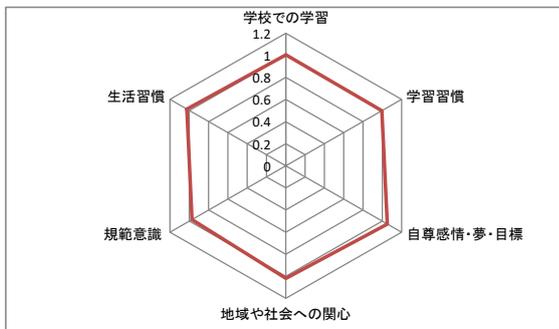
(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 数学A・B, 理科)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		数学A		数学B		理科	
	平均正答数	平均正答率								
本市	24.0	75	5.4	60	22.6	63	6.1	44	17.3	64
全国	24.3	76	5.5	61	23.8	66	6.6	47	17.9	66

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	どの項目も正答率が高く、全国平均正答率を上回った。特に、「書くこと」「読むこと」の領域についての正答率が高かった。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	8六2 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題、行書の基礎的な書き方、段落の役割。	
	努力が必要な問題	8四2 「心を打たれた。」を文末に用いた一文を、主語を明らかにし、「誰(何)」の「どのようなこと」に「心を打たれた」のかが分かるように書く問題。	
国語B	全体的な傾向や特徴など	全国平均正答率を上回った。特に、『話すこと、聞くこと』についての正答率が全国平均正答率を大きく上回った。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	1一 グラフから分かることについて文章中で説明しているものとして適切なものを選択する問題。	
	努力が必要な問題	1三 「天地無用」という言葉を誤った意味で解釈してしまう人がいる理由を書く	
数学A	全体的な傾向や特徴など	全領域の中で、図形領域の問題に関しては、全国平均を上回っているが、関数領域、資料の活用領域の問題に関しては、全国平均を下回った。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	1(1)数直線上の点が表す負の整数の値を読み取る問題。	
	努力が必要な問題	8 対頂角は等しいことの証明について正しい記述を選ぶ問題。	
数学B	全体的な傾向や特徴など	数と式領域、図形領域の問題に関しては、全国平均を上回っているが、関数領域、資料の活用領域の問題に関しては、全国平均を下回った。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	2(1)はじめの数が10のときの計算結果を求める問題。	
	努力が必要な問題	5(2)通常料金をaとしたときの団体料金の10人分が通常料金の何人分にあたるかを求める計算からわかることを選び、その理由を説明する問題。	
理科	全体的な傾向や特徴など	全体的に正答率が高く、全国平均正答率を上回っている。しかし、化学的な領域や地学的な領域の一部について課題がみられた。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	7(3)初期微動継続時間の長さや震源からの距離の関係の知識や音の速さに関する知識を活用する問題。	
	努力が必要な問題	8(3)アルミニウムは水の温度変化に関係していることについての新たな問題を見いだす問題。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

「学校での学習」「地域や社会への関心」の項目で昨年度の結果を上回るとともに、ほとんどの項目で全国平均を上回った。また、朝読書の取り組みや「話し合う活動」と「書く活動」を授業の中に位置づけた取り組み等の昨年度から継続している内容について、徐々に成果が表れてきたと考えられる。今後は、昨年度の結果を下回った「学習習慣」の一部と「規範意識」の項目について、PDCAサイクルを通して指導方法を工夫・検討していく。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ・「言葉の力」を育むために、話し合う活動と、書く活動を毎時間の授業の中に計画的に位置づけ、授業を行う。
- ・朝の10分間読書を基盤にした、読書活動を推進する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・熊中ノート(自学ノート)を活用し、家庭学習の時間を確保するとともに、質を充実させていく。
- ・家庭学習を促すため、宿題を課す。また、個別指導を充実させるために、小テストを行い、放課後に補充学習を行う。